

海外事務所
だより

二〇〇六年日豪交流年

シドニー事務所所長補佐 椎橋 直央樹 (鴻巣市派遣)

シドニー事務所

はじめに

二〇〇三年七月に日本およびオーストラリア両国間の友好関係、相互理解、協力をさらに深めるため、

小泉首相とハワード首相との間で二〇〇六年を日豪交流年として、

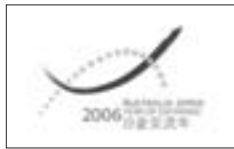
合意されました。二〇〇六年は、日豪友好基

本条約締結から三〇周年、

クイーンズランド州タウンズビル市にオーストラリアで初めて日本国領事館が設置されてから



↑現在は地元の一般市民の方が住んでいるタウンズビルの旧日本領事館



↑2006年日豪交流年のシンボルマーク

一一〇周年の節目の年に当たります。

そのため、二〇〇六年を日豪交流年(2006 Australia-Japan Year of Exchange)として、日本およびオーストラリア両国間において、政治、ビジネス、芸術文化、教育、科学技術、スポーツや観光などの分野での交流をはじめ、イベントが開催されます。

夏祭り in Sydney

ご存知のとおり、オーストラリアは南半球に位置しています。そのため、北半球の日本とは季節が正反対となり、日本で一番冷え込む二月は、こちらオーストラリアでは真夏となります。二月四日に、シドニーのダーリング・ハーバーにあるタンバロン公園において、日本に先駆けて夏祭りが開催されました。

当日は、天候には恵まれなかったものの、タンガロン公園から溢れ出すほどの人出となりました。

なり、二〇〇六年日豪

交流年のオ

ーピングを

飾るにふさ

わしく、札幌

市のYOSAKOIソ

ーランチーム

や「山鹿灯籠

まつり」の方

々々など、数

多くの団体が日本から参加され、大勢の観客を楽しませてくれました。



↑参加したお祭り団体の方々

また、シドニー市内の児童による南中ソーランやシドニー日本人会による盆踊りが行われ、大変にぎわいました。さらに、たこ焼き、焼きそば等、お祭りには欠かせない屋台も繰り出され、お祭りムードをより一層盛り上げていました。

オーストラリア国内で行われる主な「2006年日豪交流年」記念事業

月日	州	事業名	開催場所
2月4日	NSW	夏祭り in Sydney	Sydney (Tumbalong Park, Darling Harbour)
2月11・12日	NSW	日豪交流年記念 日豪スポーツ・フェスティバル	Sydney (Olympic Park)
3月23日	NSW	日豪交流年記念 ダンス・フェスティバル	Sydney (Opera House Concert Hall)
3月28日	NSW	日豪交流年記念 ミュージック・フェスティバル	Sydney (Opera House Concert Hall)
4月5～7日	VIC	展示会 日本人移民の記録	Melbourne (Immigration Museum)
5月1～5日	VIC	ジャパン・ウィーク	Melbourne (The University of Melbourne)
5月21日	VIC	ジャパン・フェスティバル	Box Hill (Town Hall, Box Hill & TAFE)
6月8日	NSW	日豪交流年記念 ジャパン・フェスティバル	Sydney (Opera House Concert Hall)
6月中旬～7月	ACT	日豪交流史写真展	Canberra (High Court)
6月22日	ACT	2006年日豪交流年ダンス・パーティー	Canberra (Parliament House)
7月3日～8月27日	VIC	90年代の日本の絵画展	Frankston (The McClelland Gallery)
8月	WA	日豪交流史写真展	Perth (State Library)
8月22・23日	NSW	日豪交流年記念 日豪合唱祭	Sydney (Town Hall Centennial Hall)
8月26・27日	NSW	日豪交流年記念 日豪スポーツ・フェスティバル	Sydney (Olympic Park)
8月27日	NSW	日豪交流年記念 ジャパン・フェスティバル	Sydney (Opera House Concert Hall)
8月下旬	QLD	ジャパン・ウィーク2006	Brisbane City
9月30日	QLD	ジャパン&フレンズ・デー2006	Gold Coast (Gold Coast Arts Centre)
10月14・15日	NSW	日本の祭り in Sydney	Sydney (Darling Harbour)
10～11月	WA	パース日本映画祭	Perth (State Library)
11月	WA	ジャパン・フェスティバル	Perth

《州名等の略称》 NSW：ニューサウスウェールズ州、VIC：ビクトリア州、QLD：クイーンズランド州、WA：西オーストラリア州、ACT：首都特別地域

日本の祭り in Sydney

日本では暑さも和らぎ行楽日和となる10月は、オーストラリアではジャガランダが咲き誇り、辺りを紫色に染めます。日本の美しい桜を見ることはできませんが、緑も生い茂り清々しい気分となります。

その10月には、二〇〇六年日豪交流年の一環として、日本の祭り団体を多数招いて、ダーリングハーバーにおいて、大規模な

日本の祭りが開催されます。

この日本の祭りは、当事務所や在シドニー日本総領事館をはじめとする各関係機関で構成された日豪交流年シドニー実行委員会が主催しますが、日本からの祭り団体の招へいに当たっては、当事務所が日本の地方自治体と調整を行っています。

初夏のにぎわいの中、日本からの祭り団体のダイナミックな踊りは、日本人だけでなくオーストラリア人をも魅了することでしょう。

今年の一〇月は、シドニーで壮大な日本の祭りを観賞されてはいかがでしょうか。飛び入り参加の踊りも企画されていますので、もしよろしければ、浴衣などをご持参の上、ご来場ください。

オセアニア地方行政フォーラム

同じく一〇月に、タウンズビル市で当事務所がフォーラムの開催が予定されています。

一九九四年に当事務所が開設されて以来、毎年オーストラリア・ニュージーランド各地において、オセアニア地方行政フォーラムを開催してきました。

毎回、その時代にあったテーマを選定し、日本とオーストラリアやニュージーランドの地方自治関係者を集めての講演会や意見交換会を行っています。

二〇〇六年は、日豪交流年であることを踏まえ、オーストラリアで初めて日本国領事館が設置されたクイーンズランド州タウンズビル市において、オセアニア地方行政フォーラムを開催します。今回、タウンズビル市からの提案もあり、当事務所とタウンズビル市の共同開催という初めての試みとなります。

二〇〇六年のテーマは、「Sustainable Solutions for Local Government」地方自治体による持続的发展（仮）です。日本・オーストラリア・ニュージーランド各国の自治

体関係者および研究者による講演・事例発表を予定しています。

また、環境分野での第一人者である日系カナダ人のデビッド・スズキ氏による基調講演も企画しています。興味のある方は、どうぞ当事務所までご連絡ください。

〈日程〉

二〇〇六年一〇月三日(火)～六日(金)

・一〇月三日 オープニング・パーティー(タウンズビル市主催)

・一〇月四日 第一日目(クリアフォーラム・デビッド・スズキ氏による基調講演ほか)

・一〇月五日 第二日目(タウンズビル市主催フォーラム)パネル・ディスカッション、ワークショップなど

・一〇月六日 第三日目 タウンズビル市内の環境設備等の視察

〈会場〉クイーンズランド州タウンズビル市

ユピターズ・タウンズビル・ホテル

〈連絡先〉電話 +61 2 924 15033

FAX +61 2 924 15014

〈Eメール〉mailto:mailbox@jlgc.org.au

おわりに

一七七〇年にイギリス人探検家のジェームズ・クックがオーストラリア大陸を発見し、その一八年後の一七八八年一月二六日に最初の植民団がシドニーに到着しました。オーストラリアでは、この日を建国記念日として祝っています。

建国から二一八年目のオーストラリアですが、日本との歴史的つながりは古く、史実として確認されているもので一七五年前にさかのぼります。一八

三一年にシドニーの捕鯨船レディ・ロウナエ号が、荒天を避けるために北海道へ寄航しましたが、当時の日本は、厳重な鎖国政策を敷いていたため、十分な交流は築けませんでした。

その後、一八六五年にオーストラリアから日本へ向けて石炭が輸出されたことが記録されています。

一八八〇年代からは西オーストラリア州北部のブルームに真珠採りの潜水夫が、一八九〇年代にはクイーンズランド州北部のサトウキビ畑の労働者が、それぞれ日本から移住してきました。そして、一八九六年にオーストラリアで最初の日本国領事館がクイーンズランド州タウンズビル市に設置されました。

一九一四年に始まった第一次世界大戦では、日本はオーストラリアの同盟国として



↑フォーラム会場となるジュピターズ・ホテル



↑タウンズビル市の全景

同国の海岸線の防衛のほか、オーストラリア軍兵士の輸送艦イエメンをヨーロッパの戦地まで護送しました。

その後、不幸にも、日本とオーストラリアは第二次世界大戦で戦うこととなりま。日本は、オーストラリア本土への攻撃を行った唯一の国です。一九四二年、日本軍はダーウィン、タウンズビル、ブルーム、そしてシドニーを攻撃しました。オーストラリアの首都キャンベラにあるオーストラリア戦争記念館には、日本のゼロ型戦闘機や特殊潜航艇、日本軍人の戦闘服などが展示されています。

一方、シドニーから西に三〇〇kmほど離れたカウラには戦争捕虜キャンプがあり、一〇〇〇人を超える日本兵捕虜が拘留されていました。一九四四年八月に、日本兵捕虜が大脱走を企てましたが、すぐに鎮圧され二〇〇人以上の死者を出したと言われています。

このカウラには、戦争で亡くなった日本人を祀る戦没者霊園があり、この地は一九六三年にオーストラリアから日本に割譲され、日本の領土になっています。

このような悲しい歴史もありましたが、現在では、経済や貿易のほかに文化交流などが通じて、日本・オーストラリア両国はかけがえのない関係を築いています。日豪交流年という記念すべき年に、この地において日本とオーストラリアの交流の一端を担えることを大変うれしく感じます。

海外生活 だより

シドニー事務所

オーストラリア での楽しみ

シドニー事務所 西野 雅代（徳島県派遣）

二〇〇五年四月、生まれて初めての海外生活が始まりました。英語の成績は、いいとは言えず、きちんと生活を送ることができると、かなり不安がありました。

まずは無事にシドニー空港に到着。空港から一歩外へ出てみた印象は、「あれっ？ここは本当に海外なの？」と思わず確認してしまいたくなるほど違和感がありませんでした。

とはいうものの、生活をしていくうちに、オーストラリア人の生活の楽しみ方は、相当違うと感じています。そんなオージー（オーストラリア人の通称）の楽しみ方を紹介しながら、私自身のシドニー生活の楽しみを報告します。

まず、通勤手段として、多くの人がフェリーを利用してることが挙げられます。シドニー湾に面するサーキュラーから鉄道

要となるセントラル駅までの南北3kmほどにオフィスが集中しています。そして、シドニー湾沿岸には、多くの住宅地があり、人気の地区には、所狭しとアパートが立ち並んでいます。日本で「フェリー通勤」と聞けば離島と連想しがちですが、湾内には多数のフェリー乗り場があり、フェリーは渋滞知らずの通勤手段として、多くの人に利用されています。

これだけでは何が楽しみなのか全く見当もつかない方も多いと思いますが、シドニーの天気よさが、フェリー通勤の楽しみを倍増させるのです。シドニーでは、晴れの日は多く、空気もカラッとしているので毎日片道一五分のクルーズ気分が味わえます。

デッキでは本を読む人、おしゃべりを楽しむ人、気持ちよさそうにうたた寝をする人と、みんな思い思いに楽しんでいます。

中には、本当の観光客の姿を見かけます。シドニー湾クルーズ等の観光用フェリーも毎日運航されていますが、所要時間は一時間から二時間です。あまり時間に余裕のない観光客は、サーキュラーからタロンガ動物園までを往復する人も少なくありません。これなら所要時間三〇分、海からオペラハウスを眺めることができます。



↑フェリーから眺めるオペラハウス

次に楽しみなのが、日本では残念ながらあまりお目にかかることのないオーストラリア・ワインとビールです。一、二年ほど前から日本でもオーストラリア・ワインが安くておいしいと評判になりましたが、シドニーでも、「オーストラリアのワインは安くておいしいのが、たくさんあるよ」とみんなから言われたので、これは確かめなくては行けないと、赴任後すぐに、シドニーから車で約三時間のところにあるハンターバレーへ行きました。この地区には約七〇のワイナリーがあります。私は、そのうち四カ所を巡るツアーに参加しました。

一つのワイナリーで赤白それぞれ三〜四種類とデザートワインを試飲しました。そして、スタッフからそのワインについて、説明を

聞くことができました。試飲の後には、気に入ったワインをダース(二本)単位でその場でまとめ買いする人も珍しくはありません。

ワイナリーは、ワインだけでなくその周りの景色も素晴らしいです。一面にブドウ畑が広がり、思わず深呼吸したくなります。ワイナリーの一角にはその景色を楽しみながら食事ができるレストランが併設されているところもあり、中には、芝生の上でピクニックを楽しむ人もいます。

ニューサウスウェールズ州のハンターバレー、ビクトリア州のヤラバレー、南オーストラリア州のパロツサバレー、西オーストラリア州のマーガレットリバーが四大ワイン産地に挙げられますが、オーストラリアには、その他大小さまざまなワイナリーがあります。

シドニーから南に電車で三時間行つたところへベリーという一九世紀後半から二〇世紀前半の建物が並ぶきれいな小さなまちがあります。そのまちにジャスパールバレーというワイナリーが一軒あり、ここには宿泊することもできます。

私は、全く計画も立てずにガイドブック片手にベリーに到着したものの、



↑ハンターバレーのワイナリーにて

既に午後三時。シドニーに帰ることも可能でしたが、思い切つてジャスパールバレーに電話してみることにしました。親切なおばあさんが対応してくれ、おじいさんが駅まで迎えに来てくれました。

幹線道路を外れ、舗装されていない道で車で走ること一五分、退職した老夫妻ジョンとパットが経営し、週末は近くに住む息子夫妻が手伝いにくるといふ家庭的な雰囲気ワイナリーでした。また、ジャスパールバレーは、宿泊と朝食の付いたB&Bなのですが、親切な老夫妻と一緒に夕食をとる機会がありました。

話好きなジョンは、かつて南アフリカやオーストラリアの国立公園で監視員をしていたというこれまでの自分の人生を面白おかしく話してくれました。そして、翌日に私を近くのレインフォレストに案内してくれました。

日本では考えにくいことですが、初めての人との出会い、会話を楽しむオーギーらしい出来事でした。

さて、ワインと並んでビールの種類の多さに驚きました。日本のアサヒ、キリンのように全国的に飲めるビールもありますが、その多くは地ビールです。

レストランに行くと、通常、五〇一〇種類のビール銘柄があります。シドニーでも通りを五〇〇m歩くと二軒くらいはパブを見つけてことができます。とにかくこの国には、たくさんパブがあります。その昔、オース

トラリアでは、ホテルでしかお酒を売ることができませんでした。一階が飲酒の場(現在のパブ)、二階から上の宿泊できる施設がホテルと呼ばれていました。この名残りのため、今でもホテルと名前のつくパブが数多くあります。

パブでは老若男女が、ビール片手に世間話に花を咲かせます。スポーツ好きなどの国では、壁一面の大型スクリーンを設置しているところが多く、夏ならクリケット、冬ならラグビーを見ながら、おしゃべりとビールを楽しみます。

国を挙げてのスポーツのイベントともなれば、昼間からパブは人で溢れ、ニュースでその状況の中継したりします。実際にゲームが行われているスタジアム以上に盛り上がりを見せるのもオーギー流のパブの楽しみ方でしょう。一度は、この中に入りたいと思います。立派な体格の人が多いため、ついつい二の足を踏んでしまいます。

シドニーでの生活も折り返し地点を過ぎた今、楽しいことはもちろん、楽しそうに見えることもどんどんチャレンジしたいと思えます。



↑ジョンが案内してくれたサドルバックマウンテンから